

弘前大学が掲げる「3つの戦略」及び進捗状況

【戦略1】

アグリ・ライフ・グリーン分野における地域の特性・資源を活かしたイノベーション創出・人材育成

〔戦略の概要〕

本学が自治体や地元企業等と連携して培ってきた強み・特色である「食＝アグリ」、「健康(医工連携)＝ライフ」、「再生可能エネルギー＝グリーン」の3分野を活かし、総合大学ならではの理系・人文社会系の“知”を結集するとともに、更なる連携の強化や地域の特性・資源を最大限に活用することで、地域活性化に向けたオール弘前大学によるイノベーション創出と人材育成を目指す。

〔進捗状況〕

【組織整備】

- 食（アグリ）、医工連携（ライフ）、自然エネルギー（グリーン）分野において地域を牽引できる人材の育成に向けて、平成28年度に理工学部と農学生命科学部を再編する組織整備を実施。

【プロジェクト】

- 青森県の主要産業である農林水産業の6次産業化に向けて、本学の強み・特色である食・再生可能エネルギーなどの専門知識を活用した研究を展開して、国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた仕組みを目指す研究プロジェクト事業を実施。
- 青森県産食品素材の高付加価値化に関する研究、再生可能エネルギー（温泉熱・バイオマス）の農・水産業への有効活用に向けた研究など、地域イノベーションの創出を目指した研究を進めている。
- 事業の進捗管理や内容の検証等、事業を効果的に推進することを目的として、企画担当理事の下に、「地域イノベーション創出会議」を平成28年9月に設置。

【戦略2】

こころ・からだの健康増進に向けた社会医学的観点からの総合的な健康づくり教育研究拠点の形成

〔戦略の概要〕

“住民の健康度向上”を最大テーマにした我が国初の本格的な社会医学的教育研究拠点を自治体や企業等との連携の下で形成し、11年間のデータ蓄積がある大規模教育研究フィールドを活かした、こころとからだの健康増進に繋がる社会医学的な教育、研究、社会貢献活動を推進する。

〔進捗状況〕

【プロジェクト】

- 平成17年から実施している「岩木健康増進プロジェクト」を継続して実施、さらに、平成28年度から新たに65～80歳の弘前市民を対象とした認知症のコホート研究「いきいき健診」を開始。
- 健康増進に関わる指導者育成の流れを確立することを目的として、医学研究科大学院に「スポーツ医科学・社会医学推進枠」を設置。（平成28年度3名入学）
- ライオン株式会社からの寄附講座により、平成28年5月に「オーラルヘルスケア学講座」を設置。健康のための歯科口腔衛生や睡眠と健康との関係を社会医学的見地から調査・研究を行う。
- 学内の健康増進に係る既存の5つの関係機関、「弘前大学COI」「子どものこころの発達研究センター」「地域健康増進学講座」「北日本健康・スポーツ医科学センター」「社会医学講座」を有機的に統合した「健康未来イノベーションセンター（仮称）」の設置に向けて検討を進めている。

【戦略3】

被ばく医療における安心・安全を確保するための国際的な放射線科学教育研究の推進

【戦略の概要】

原子力関連施設を擁する地域特性に鑑み、さらに弘前大学がこれまで培ってきた「被ばく医療」での人的・

知的資源を最大限に活用し、全学的な「放射線科学」及び「被ばく医療」に係る教育・研究の国際拠点を構築し、特にアジア諸国を中心に国内外における国際的な高度専門職業人を育成する。さらに、当該分野におけるリーダーシップを発揮し、国の被ばく医療機関として放射線事故等有事の際には、診療面も含め世界的な貢献を果たす。

【進捗状況】

【プロジェクト】

- 昨年度本学が国の被ばく医療の中核機関の1つとして指定を受けた「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」が行う高度専門教育研修や医療機関とのネットワーク構築などの活動と一体となって教育・研究・医療事業を展開するために、弘前大学放射線安全推進会議の下に「放射線安全総合支援センター」を平成27年10月に設置。
- 国外機関との連携として、中国^{ふくしゃ} 放射防護研究所（中国）、チェンマイ大学保健医療学部（タイ）、東南圏原子力医学院（韓国）の3つの国外機関と放射線に係る共同研究の推進・人的交流に関する協定を締結。
- 若手研究者の育成として、大学院生1名をストックホルム大学（スウェーデン）へ、教員2名をハワイ大学とシャーミナーデ大学（米国ハワイ州）へ派遣。
- 新たな専門看護師となる「放射線看護専門看護師」を養成する教育課程の認定を受けるため、申請書類を日本看護系大学協議会へ7月に提出。